

Press Release

2014年8月15日
メドピア株式会社

「手術の執刀を引退するタイミング」について 約3分の1は、スキルの限界を感じたときを引き際と考えている

医師70,000人以上が参加する医師専用サイト「MedPeer」(メドピア、<https://medpeer.jp>)を運営するメドピア株式会社<東京都渋谷区、代表 石見陽(医師)>は、会員医師を対象に「手術の執刀を引退するタイミング」についてのアンケートを実施し、以下のとおり、結果を取りまとめました。

医師専門サイトMedPeer調査結果：「手術の執刀を引退するタイミング」について（総回答：1,278人）

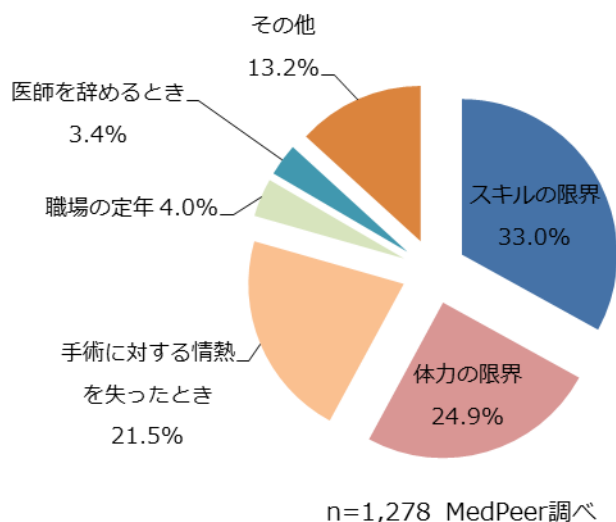
順位	回答	回答数(人)	占有率
1	スキルの限界を感じたとき	422	33.0%
2	体力の限界を感じたとき	318	24.9%
3	手術に対する情熱を失ったとき	275	21.5%
4	職場の定年に達したとき	51	4.0%
5	医師を辞めるとき	43	3.4%
6	その他	169	13.2%
-	合計	1,278	100.0%

サマリー：

- 医師専門サイトMedPeer(メドピア)に登録する医師(70,000人以上)を対象に「手術の執刀を引退するタイミングはいつだと思いますか」という質問をしたところ、1,278件の回答が寄せられた。
- 「スキルの限界を感じたとき」という回答が33.0%だった。「自分よりも後輩や部下の手術の方がうまくなったと思ったとき」「技術の進歩についていけなくなったとき」といった声がある。
- 「体力の限界を感じたとき」は24.9%。全体を通じて「老眼による視力の低下」を挙げる声が多かった。「術後の疲労がぬけない」「術後急変時に十分な対応が出来なくなった時」といったコメントもあった。

- 「手術に対する情熱を失ったとき」は21.5%で、「根気、集中力に自信がなくなった時」「術場に立ちたいという気持ちが萎えた時」「情熱がなければ体力やスキルもついてこない」という意見がみられた。

▼総合結果



回答コメント（回答一部を抜粋）

「スキルの限界を感じたとき」 422件

- ・自分より他の医師が施行した方が患者のメリットになると思った時。(50代、乳腺・内分泌外科)
- ・自分のイメージどおりの作業ができなくなったときは手を引いたほうが患者さんのためだと思います。(40代、一般外科)
- ・後輩連中の仕事を見てるとまだまだだなと感じます。追い越されたと感じた時が潮時でしょうか。(50代、消化器外科)
- ・最新の医療レベルを維持するのは難しい。(50代、整形外科・スポーツ医学)
- ・手術手技はどんどん進歩しているので、それについていけなくなったとき。(40代、消化器外科)
- ・自分で自分の限界を見極めるしかないと考えています。(40代、整形外科・スポーツ医学)
- ・限界を感じ、手術の執刀をやめました。(50代、一般外科)

「体力の限界を感じたとき」 318件

- ・術後合併症に対して2, 3日徹夜で対処できなくなったときでしょう。(50代、一般外科)
- ・体力というよりは視力が大きな力ギを握っていると思います。(50代、呼吸器外科)
- ・術後に疲労を強く感じる場合があります。体力に限界を感じた時が引き際だと思います。(50代、形成外科)
- ・体力だけではなく、患者に真剣に向き合う精神力が無くなった時かな。(40代、整形外科・スポーツ医学)
- ・手術のstressに耐えられなくなった時が、引退の時期です。(50代、一般外科)
- ・術後急変時に十分な対応が出来なくなった時です。(50代、一般外科)
- ・きちんと術野が見えていない、とっさの止血ができないような先生を見ると、自分がこうなったら執刀はやめようと思ってしまう。(40代、消化器外科)

「手術に対する情熱を失ったとき」 275件

- ・情熱に後押しされて毎日こなしています。情熱がなくなったらメスをおきます。(50代、整形外科・スポーツ医学)
- ・わたしの場合は、根気が続かなくなったこと、老眼が進んで細かい作業がしにくくなったことなどから、熱意を失いました。(50代、消化器外科)
- ・リスクや手間を考えても、手術そのものに興味・情熱があつてこそ続けられる。それらが無くなったら、手術引退と思っています。(40代、脳神経外科)
- ・決まり切った定期手術は続けられても、術後出血で再手術が必要となった時に消極的になるようならやめ時かもしれません。気力が衰えると何かと判断が鈍ります。つつい事なかれの方向に…。(40代、脳神経外科)
- ・情熱という表現が適切かは意見があります。体力の限界ではなく、最後は気力の限界だと思います。多くの外科医がこだわりを持って手術をしています。そのこだわりが持てなくなった時が限界ではないでしょうか？(60代、一般外科)
- ・疲れてもオペしたいという情熱がなくなったとき、辞めどきだと思います。(50代、一般外科)

「職場の定年に達したとき」 51件

- ・やはり60歳が限度と思われれます。(40代、消化器外科)
- ・定年後は手術する機会がなくなる。ちょうどその頃、気力、体力の限界を感じた。(70代、一般外科)
- ・定年まではせざるを得ないと思うが、なるべくは若い人にやってもらおうと思っている。(50代、消化器外科)
- ・責任ある手術をする上では、定年が一つの区切りだと思います。(50代、泌尿器科)
- ・手術内容は選択されていくと思いますが、本当に手術を引退するのは、定年ではないでしょうか。(30代、整形外科・スポーツ医学)

「医師を辞めるとき」 43件

- ・医師を辞める時でありたいです。でも現実には厳しいかもしれませんね。(30代、産婦人科)
- ・医者辞めるまで外科医であると思います。(40代、消化器外科)
- ・今は外来手術しか対応していませんが、それまでは救急外傷や外来手術は続けます。(50代、一般内科)

「その他」 169件

- ・周囲からの信頼、信用を失ったときだと思います。最近、欧米でも見るに堪えない高齢外科医の手術をどう止めさせるか(引退させるか)が話題になっていました。(40代、消化器外科)
- ・有望な後輩が育ってきている時。自分ばかり執刀する様なエゴな外科医にはなりたくない。外科医の職業的到達点は、完璧な助手になることだと考えている。(30代、一般外科)
- ・医局人事により、手術の無いところへ異動になったのがきっかけです。(40代、脳神経外科)
- ・高難度手術が多い肝胆膵外科に限れば、スキルをいかに維持するかが問題で、少なくとも月に数例を主体的に執刀出来れば技術・気力低下はないであろう。需要がなくなれば潮時でしょうか。(70代、消化器外科)

※調査方法

□期間：

2014年7月28日（月）～2014年8月3日（日）

□有効回答：

1,278人（回答者はすべて、医師専門サイトMedPeerに会員登録をする医師）

□設問：

医師専用サイト MedPeer内の「ポスティング調査」コーナーにおいて、医師会員からご投稿頂いたテーマをもとに、以下の質問を投げかけました。

調査フォーム（設問文 抜粋）

高齢であっても、精力的に手術の執刀をされている先生は多くいらっしゃいます。その一方で、若くして手術の執刀を引退した先生も、たくさんいらっしゃると思います。

そこで皆さまにお伺いします。

皆さまは手術の執刀を、どのようなタイミングで引退した、もしくは引退すべきと考えていますか？

以下の選択肢から、【専門科目が外科】の先生は選択肢1～6からご選択ください。

1. 医師を辞めるとき
2. 職場の定年に達したとき
3. 体力の限界を感じたとき
4. スキルの限界を感じたとき
5. 手術に対する情熱を失ったとき
6. その他

【本件に関するお問い合わせ先】

メドピア株式会社 管理部 TEL：03-6805-0345 / e-Mail：pr@medpeer.co.jp

【記事掲載に際してのお願い】

- ・「医師専用サイト MedPeer 調べ」、であることの明記をお願い致します。
- ・web 上での引用に際しましては、<https://medpeer.jp> へのリンクをお願い致します。

■ MedPeer（メドピア）とは - 2014年6月時点 -

MedPeer は、メドピア株式会社が運営する、医師専用のインターネットサイトです（URL：<https://medpeer.jp>）。会員医師同士による情報共有サービス「薬剤評価掲示板」や、特定疾患治療に関するエキスパート医師による情報提供「Meet the Experts (MTE)」、有名臨床指定病院の所属医師参加のオンライン症例検討会「インタラクティブ・ケース・カンファレンス」などを MedPeer 上に設け、「臨床の決め手がみつかるとして、多くの医師に利用されています。現在の会員は 70,000 人以上で、日本の医師の約 4 人に 1 人が利用するサービスです。また、「薬剤評価掲示板」では、約 2,000 の医療用医薬品に対して、30 万件以上の医師会員による処方実感、クチコミ評価が投稿されています。

以上